

2022年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校</p> <p>2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校</p> <p>3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校</p>
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身に付けさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう、異文化理解の活動を推進する。
7 情報教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る。
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。
9 働き方改革の推進	教職員が健康でやり甲斐が持てるよう業務改善を図るため、校務支援システムの導入など職場環境作りに努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 授業時間の確保と規律ある授業実施の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期制導入に伴う行事の精選や行事の実施方法の見直し等を行う。</li> <li>・チャイムで授業開始・終了を徹底する。</li> <li>・節度ある態度で授業に参加できるようにする。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期制に即した学習指導のあり方を構築する。学習習慣の確立が乏しい生徒に対する働きかけ方を見直す必要があると同時に、学習意欲のある生徒に対する指導方法等を検討する。</li> <li>・本年度の実践をふり返り、観点別評価の評価規準や評価方法の適正さを高める。</li> <li>・令和5年度第1学年から年度進行で、すべての生徒がタブレットを所持することになるため、ICT活用を意識した授業展開・課題配信等を意識的に行う。</li> <li>・教科単位で研究授業等を実施し、教科指導力の向上を図り、人材育成にも留意するよう努める。</li> </ul>
	2 PDCAサイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NOLTY スコラ手帳の活用を通して、より良い生活習慣の確立を図る。</li> </ul>	B		
	3 適正な観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごとに作成した評価規準による評価の実践と、必要に応じた評価規準や評価方法の見直しを行う。</li> </ul>	A		
	4 授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごとに、アクティブラーニング、ICT活用を意識した授業展開・研修を心がける。</li> </ul>	A		
	5 エリア設定科目の実践と必要な修正を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したシラバスの実践と必要な修正を行い、エリア設定科目の充実を図る。</li> </ul>	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
図書情報部	1 図書室利用や図書の貸し出しの促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室内の装飾を工夫し、明るく、親しみやすい図書室環境作りをする。</li> <li>・生徒にわかりやすい配架や貸し出し・返却の仕方を検討し、より円滑な図書利用を図る。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用やについては、まだ利用の度合いは低く、改善・検討の余地はある。しかし、昨年に比べ図書室利用の啓発活動に工夫を施した結果、利用者も徐々に増えてきている。次年度も根気強く啓発活動に取り組みたい。</li> <li>・昨年度の学校HPリニューアルから、今年度は更に改良点を加え、より充実した情報発信ができるようになってきた。次年度は活動報告を多岐にわたり発信できるようにしたい。</li> <li>・本年度は Classi の導入により、より通信システムを利用した学習活動にシフトしてきた。次年度は更に適切な学習活動ができるように検討していきたい。</li> <li>・次年度から生徒一人一台の端末を導入する予定である。各教科・各学年・学校全体で利用の方法について検討していきたい。</li> </ul>
	2 図書の紹介を通して読書活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめ本のコーナーの設置の仕方や掲示の方法を工夫し、生徒の読書に対する関心を高める。</li> <li>・読書週間（読書キャンペーン）を設けるなど、啓発活動に努める。</li> </ul>	A		
	3 茨城県高等学校教育研究会図書館部 私立学校担当取りまとめ校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、先の担当校になっている。円滑に運営を心がける。</li> </ul>	A		
	4 本校教育への理解が高まるように、教育活動に関する情報を外部に対して積極的に発信し、共有を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HP、Twitterの定期的な更新及び classi での学校連絡の配信など、最新情報を掲載・配信を行う。</li> </ul>	A		
	5 校内ネットワークの整備と生徒一人一台の端末の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度からの運用に向け、計画を立て進めていく。特に端末の選定や各教科と連携して教材ソフトの検討などを行う。</li> </ul>	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒 指導部	1 生徒一人一人についての理解の 深化を図る	・全教員で生徒に対し、言葉をかけ 続け、一人一人の声に耳を傾け生徒 の心の移り変わりを敏感に感じ取 る配慮を徹底して続けていく。	B	B	・本年度生徒とのコミュニケーション が取れていないことからくる問題が 垣間みられた。次年度は、生徒たちが 手をかけられているなど感じられる ようなコミュニケーションの取り方 を全教員で行っていききたい。 ・生徒においては自己指導能力の稚拙 さが感じられている。つくば国際大学 高校の生徒であるという自覚の元、プ ライドを持って学校生活を送れるよ う挨拶から取り組んでいきたい。 ・講話及び教室掲示等により SNS 被害 似合わぬよう啓発に努めていきたい。
	2 基本的生活習慣の習得	・各学期始め及び随時服装頭髪検 査を行う。 ・生徒指導係・担任・副担任による 定期的な生活指導により、自己指導 能力の育成を図る。	B		
	3 情報安全教育を勧め、危機管理 能力を養成する。	・携帯電話・スマートフォン等の適 切な利用方法と SNS 利用時の危険 性について、講話を通して指導して いく。 ・各担任からの利用マナー指導を 継続して行い、問題行動の撲滅を図 る。	A		
	4 薬物乱用防止を徹底する	・高校生の大麻関連逮捕者の増加 を鑑み、薬物乱用防止講話の実施 ・保健授業及び学年集会等におい て危険性などの周知を図る。	A		
	5 いじめ防止教育を推し進める	・いじめは絶対に許されるもので はないという立場を、担任等から明	B	・残念ながら本年度についてもいじめ 事案があった。生徒とコミュニケーシ	

		<p>確に指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回（7月・12月・3月）の学校生活に関する調査（いじめ状況確認調査）を行い、状況把握に努める。</li> <li>・学年集会及びHRにおいていじめの定義について再確認を行い、他者に対する思いやりの醸成を図る。</li> </ul>		<p>ョンを取りながら、いじめの定義から始まり、被害・加害双方の面から非常に大きなダメージを負ってしまうことの認識をさせることに努めていきたい。絶対にどんな理由があるにせよ許されないものであると理解させていきたい。</p>
6	交通安全教育を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の警察署交通課担当による交通安全講話を実施し、交通ルール遵守についての重要性を理解させる。</li> <li>・生徒指導部職員による登下校指導を行い通学時の安全の確保を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も講話・掲示物等により交通安全の啓発を行っていく。特に原動機付自転車関連の問題を生徒に周知していきたい。</li> </ul>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	生徒一人ひとりの夢を育み、その夢を実現させる。	<p>&lt;対生徒・保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『進路探究室』を更に充実させる。PCの台数を増やしたり、エントリーだけでなくWeb面談にも対応できるようにする。また、OC情報や進路情報を生徒にわかりやすく提供する。</li> <li>・Classiを活用し、 <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の成績や学習時間を管理・把握し、成績の向上を図る。</li> <li>②課題配信を通して家庭学習・自主習慣を確立していく。</li> <li>③保護者との連携を図る。</li> </ul> </li> <li>・進路業者と連携し、進路ガイダンスや職業理解ガイダンスなどを適宜実施し、進路選択の幅を広げる。</li> <li>・併設の幼稚園・保育園実習だけでなく、外部機関主催の看護体験や就職希望者対象のインターンシップを企</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境を整えていただけたが、生徒が使用できるPCが少ないため、探究室を生徒が活用する回数が少なかった。次年度からは生徒用のPCを進路探究室で保管し、いつでも生徒が利用できるようにすることで、より身近な進路室にする。</li> <li>・ベネッセに協力いただきClassiについて生徒への講習会や教員への説明会を実施することができたが、生徒の学習活動を教員が管理するところまで至らなかった。来年度は、各担任が生徒一人ひとりに寄り添って学習管理をできるようにお願いしたい。また、面談時にICTを活用してもらえるように研修会を重ねたい。</li> <li>・エリアの授業と進路ガイダンスが内容が被る点も出てきたので、しっかりと精査していきたい。</li> <li>・来年はコロナの対応が変わるので、実習はより充実させていきたい。</li> </ul>

		<p>画し、進路への意識付けやミスマッチを防ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部模試を活用し、得意不得意科目等の自己分析や課題設定を行い、学力向上を図るとともに進路実現へ導く。</li> <li>・外部模試受講生徒に対して、教科担当者とは協力し、要点の解答解説課外を実施する。</li> <li>・大学進学課外を実施し、大学進学者数を増加させるとともに、大学入学後の授業についていける実力をつける。</li> </ul> <p>&lt;対教員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目まぐるしく変化する入試に対応するため、外部研修や大学説明会に参加し、進路研修を重ねる。</li> <li>・指定校推薦枠を増やすため、本校生のレベルにあった新規上級学校に対し、積極的に指定校推薦枠の依頼をする。</li> </ul>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部模試の受験者数が少なかった。模試の大切さを生徒にしっかりと理解させる指導が必要だと感じた。</li> <li>・外部模試はすべて順調にこなせたが、振り返りについては生徒に指導することができなかった。模試後のフォローを再度考えていきたい。</li> <li>・大学短大進学率が40%近くなり、安易に専門学校を選択していた生徒が減ったことは大きかった。来年度も挑入試に戦う姿勢を養っていきたい。</li> <li>・大学の説明会に参加したことで入試の特徴を理解できたので、入試対策をすることができた。既に来年度の入試改革の情報もあり、来年度以降も積極的に入試説明会に参加して生きた。</li> <li>・指定校依頼もより早期に送れるように準備をする。インターンシップ依頼も含めより多くの事業所に足を運び信頼関係を築いていきたい。</li> </ul>
--	--	--	--	----------	---

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職先を確保するため、実績のある企業はもちろん、近隣企業の新規開拓のための挨拶まわりを行う。</li> <li>・現役生徒への進路選択の一助となるよう、進学・就職後の卒業生の追跡調査(訪問)に力を注ぐ。</li> </ul>	<p>B</p> <p>C</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・追跡調査は現在進行中である。</li> </ul>
--	--	--	-------------------	--	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者と教師の連携強化を図り、本校教育活動の理解及び発展を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A活動を通じ、保護者との情報交換を積極的に行い、各活動に対する共通理解を図る。</li> <li>・ P T A活動における改善点や問題点に対して保護者との意見交換を積極的に行い、対応を図る。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T Aとの連携を密にし、情報交換をしていくこと。</li> <li>・ P T A関係行事の精査を P T A会員とともにやり、必要行事、不要行事を見極め、改革を行っておくこと。学級長のなりてが見つかりにくい傾向対策として、「魅力的な活動にいきる」と「活動内容をうまくアピールすること」などの努力が必要ではないかと思われる。</li> </ul>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において積極的に清掃活動を行ない、生活環境の美化を図る。また、委員会活動の活性化を図り清掃活動などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室及び分担区の清掃をきちんと行い、生活環境美化に取り組み、ごみの落ちていない清浄な環境をつくる。</li> <li>・美化委員や校内環境美化のボランティアなどの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室棟各階男子トイレ内のごみ散乱や、設備の破損、いたずらについて、清掃担当者の方からの相談を多く受けた。その都度、清掃や修繕を行ったが改善は見られず、同じことの繰り返しという現状である。全般的に、トイレ（公共の場）でのマナーの周知・徹底が必要である。</li> <li>・清掃担当者の方の退職に伴い、清掃区域の選定や、職員と生徒の分担について、再検討が必要である。</li> <li>・防災避難訓練は、中川商事所有地を避難場所として円滑に実施出来た。しかし、今後も上記所有地が借用可能かは不透明なため、実際の緊急時に即応した実践的な退避行動が出来るよう避難場所等の検討を行う。</li> <li>・奨学金関係は、例年通り適切に行えたので次年度も同様に実施したい。</li> </ul>
	2 火災及び地震などの災害対策についての徹底を期し、生徒並びに教職員の防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災避難訓練を通して、自身の安全確保の仕方や、避難経路を確認することで、万が一の災害時においても可能な限り被害を被らないよう日常的な意識の高揚を図る。</li> </ul>	B		
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるように生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会の創出の一助とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の期限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。</li> <li>・適宜説明会を行い、本人・保護者に制度の理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。</li> </ul>	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
特別活動部	1 様々な学校活動を通して、学内における生徒同士の関わりをを深め、コミュニケーション能力の向上を目指す。	・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士がかかわりを持つことのできる運営を実施する。	B	<p>・今年度は、好文祭で保護者を招いた限定公開や2部制で行った芸術鑑賞会など新しいことに挑戦した一方、新型コロナウイルス以降、感染対策を意識した学校行事の運営方法がマンネリ化してしまっている。コロナに対する方針が軽減されてきているなか、生徒が伸び伸びと活動できる企画運営を考えていきたい。それに伴い、委員会活動も、年度初めの会議以降、ほとんど活動がないのが現状であるため、学校行事と合わせて、多くの生徒が活動できる場を作ることが課題である。</p> <p>・今年度の部活動加入率は、3年生を含めると約50%。2月28日現在1、2年生に絞ると約39%となる。加入率を上げるために、部活動紹介等を工夫していきたい。また、定期的に活動していない、部員がいないなどの部活動は、精査していく必要がある。</p> <p>地域貢献活動として、様々なボランティア活動に参加することができた</p>
	2 委員会活動の活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるようにする。	C	
	3 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なる、より豊かな人間関係を育成する。	B	
	4 クラス活動を通じた協調性・自主性・社会性の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	・クラスマッチや好文祭などのクラス活動において、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。	A	
	5 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成をを目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	B	

				が、部活動生が中心となっていることが多いため、一般生徒への参加の呼びかけを行い、多くの生徒に協力してもらえようしていきたい。
--	--	--	--	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教育相談部	<p>1 教育相談の円滑な運用を図り、生徒の自己理解を促し、自ら前進する力を付けるための支援を行う。</p> <p>2 研修会を通し、教員の教育相談能力の向上を図る。</p>	<p>・学校生活において、友人関係や学習面など青年期の発達課題に直面し、大きな不安や緊張に悩む生徒に対し、彼らを取り巻く担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図り、不安や悩みを解決するための援助を行う。</p>	A	B	<p>・本年度の教育相談室利用者は、2月24日現在で36名（延べ利用回数144回）。カウンセリング実施者は33名（延べ実施回数111回）。これに保護者の4名（延べ回数11回）が加わる。教育相談室利用生徒及びカウンセリング実施生徒は特に1年生の利用者が多い状況であり、次年度の学年、新担任への引き継ぎを万全に行えるようにしたい。</p> <p>・相談室利用では長期にわたる利用者は少なく、数回の利用で教室復帰するケースが多かった。また、カウンセリングの相談内容（主訴）としては、学校生活について、友人関係、家庭環境、体調や身体についての悩みなど多岐にわたる。研修会等の実施により教員の対応力の向上を図りたい。</p> <p>・相談部内での各種業務の係・担当について明細化し、機能的な運営が行えるようにしたい。</p>
		<p>・学年主任、及び各教科担当の教師と学習内容の確認作業を行い、教育相談室利用生徒の学習の滞りを防ぐ。また、自学的学習のサポートにより学習意欲を促す。</p>	B		
		<p>・具体的な事例研究などの職員研修を企画・実施することで、教員のカウンセリングマインドの能力向上を行う。</p>	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実 ・自己目標 ・職業・学校理解 ・自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアの授業と学年が連携して目標を達成するよう計画的に指導に当たる。</li> <li>・進路ガイダンスやインターンシップを通して、自己の興味、適正を知り、職業や学校について理解する。</li> <li>・自己管理能力を育成するためにスコラ手帳を有効活用し、PDCAサイクルを習慣化する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の希望進路について、職業や学問に対する意識向上を目的とした進路ガイダンスや小論講座を行った。</li> <li>・スコラ手帳 継続的な手帳の活用が困難な生徒がおり、クラスによって差異が出た。来年度は、SHRなども有効活用し、PDCAサイクルを習慣化したい。</li> <li>・インターンシップに関しては実施に向けて準備を進めてきたが、短期間での事業所訪問により、クラス経営に支障をきたさないように、進路指導部と連携して早期からの準備を進められると良いと思う。</li> <li>・ベーシックでは、まとめのテスト、定期考査などの実施により、メリハリのある学習を行った結果、意欲的に学びに向かう姿が見られた。また、基礎力診断テストの事前学習及びに事後指導や模擬試験の積極的な受検により、進路マップでは、数学、英語に於いて、Bゾーンの人数が増えた。成績</li> </ul>
	2 確かな学力の向上 ・学びに向かう姿勢 ・基礎学力の定着 ・学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業、を工夫する。</li> <li>・ベーシックの授業において躓きを発見し、基礎学力の向上を目指す。</li> <li>・落ち着いた授業態度と、忍耐強く課題などに取り組む姿勢を養う。進路マップや資格検定資格などに目的意識をもって挑戦し、自己を高められるような指導を心掛ける。</li> </ul>	B		

	<p>3 人間関係作りの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者理解</li> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・豊かな心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュャーズキャンプにおけるプログラム学習を通して、コミュニケーション能力や人間関係構築の基盤を造る。</li> <li>・校内行事や人との繋がりを大切に、多様な価値観に理解を示す。</li> </ul>	B		<p>下位層についての指導が今後の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュャーズキャンプの実施により、入学後の人間関係構築ができ、生徒同士が早期に打ち解けることができた。一方で、内面的な未熟さが引き起こす友人間トラブルが多く見られた。今後も豊かな心の育成のため、継続的に助言、指導が必要である。</li> <li>・髪型服装検査や身だしなみ習慣などを定期的に設けて指導することで、社会的自立に向けてのマナーや規範意識の習得を目指した。今後も根気強く丁寧に指導を行い、落ち着いた日常生活が送れるようにしていきたい。</li> </ul>
	<p>4 特別活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内活動と部活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動や生徒会、部活動に積極的に取り組むことで、他者との協働を通して逞しく生きる力を養う。</li> </ul>	B		
	<p>5 社会的自立に向けての必要な資質と基盤作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーと規範意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみや言葉遣いを、日々丁寧に指導することで、気持ちを整え、落ち着いた日常生活を送ることができるようにする。</li> <li>・成人としてのマナーや規範意識を身に付けるため、内面から意識が変わるような指導を心掛ける。</li> </ul>	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第2学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の進路に関する活動について、下記の各事項を活用及び連携し、進学希望又は就職希望を明確化させる。</li> <li>①ノルティール手帳</li> <li>②キャリアデザイン</li> <li>③進路ガイダンス(後期には就職希望者を対象にしたインターンシップ実施予定)</li> <li>④二者面談(三者面談) 等</li> <li>・生徒の進路に関する情報を学年で共有(PC)し、さらに積み重ねる。(=次年度へ継続ある引継ぎ)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインでは「進路達成プログラム」を活用し、進学(大学/専門学校)又は就職と進路に対して深く考える時間を設けることができた。これにより生徒たちは進路活動を段階的に取り組み、確実に現時点での進路先をまとめることができた。</li> <li>・進路ガイダンスは、後期から進学と就職を分けて行い、より一層の進路に対する考えを深めることができた。特に、就職希望者に対しては、インターンシップ(当学年初の試み)を行い、就職に対する高い意識も加わり、生徒たちは実際の現場から様々なことを学ぶ貴重な機会となった。</li> <li>・学力の向上としては、テストや考査の振り返り(PDCA)に課題が残る。次年度は年度初めから学習に対する働きかけを徹底する。</li> <li>・人間関係作りは、状況に応じて生徒に働きかけを行い、「思いやり」や「尊重」など心の成長を促した。また、本</li> </ul>
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、基礎力診断テストの「振り返り」を行い、学習方法等の確認及び改善をして学力の向上を図る。(=PDCA サイクルの定着化)</li> </ul>	B	
	3 人間関係作りの推進 学年目標 「ONE TEAM」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会やクラス HR 等を通して、友人関係の在り方や言葉遣い、協働の大切などを指導し、思いやりのある友人関係を構築できるようにする。</li> </ul>	B	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスマッチや野球応援、好文祭などの学校行事を通してクラスはもちろん、学年全体の親睦を深める。</li> </ul>		<p>年度は修学旅行を実施できたことにより、より一層学年全体の絆を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の活性化では、当学年は他学年より消極的であり、次年度はコロナ禍がおさまりつつあることに加え、最後の高校生活であるため何事にも積極的に取り組むように働きかける。</li> <li>・国際教育の推進では、修学旅行先をコロナ禍により国内に切り替えたことにより国際理解や実際における語学力を経験することができなかった。しかし、旅行先を国内にしたことにより改めて日本文化の見分を深めることができた。</li> </ul>
4	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動や生徒会、部活動の重要性を認識させ、積極的に取り組ませることにより生徒たちが中心となった学校生活を構築できるようにする。</li> </ul>	B	
6	国際教育の推進	<p>※3月の修学旅行では3年ぶりの海外（台湾）を予定している。</p> <p>事前学習や現地の高校との交流等を通して、語学力（英語）の向上及び異文化理解（国際理解）を図る。</p>	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアの授業と学年が連携して目標を達成できるよう計画的に指導に当たる。進学希望者は、オープンキャンパス等、積極的に参加し、進路目標を実現させる。就職希望者に対してもしっかり指導し、先手先手で行い、全員内定をもらう。</li> <li>・自己管理能力を育成するためにノルティエ手帳を引き続き有効活用する。</li> <li>・3学年生徒全員進路決定、全員卒業の目標を達成する。</li> </ul>	A	A	<p>アドバンス3年目でキャリア教育やエリア授業等の成果が出始め、4月の段階で進路希望未定者が0名と、いいスタートをきることができた。</p> <p>その後、担任、副担がしっかりと連携を取り、生徒にしっかりと向き合うことができ、進路指導部ともいい連携が取れたので、進路決定がほぼ100%を達成することができた。</p> <p>【進路決定詳細】在籍142名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学 46名</li> <li>短大 9名</li> <li>専門 58名</li> <li>就職 27名</li> <li>未定 3名</li> <li>※大学合格発表待ち 1名</li> <li>就職活動中 2名</li> <li>決定率 98%</li> </ul> <p>本年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染の影響で中止になっていた学校行事が徐々にできるようにな</p>
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業を工夫する。</li> <li>・引き続きベーシックの授業において基礎学力の向上を目指す。出来る喜びを一人でも多く味わえるようにする。</li> <li>・進路マップで成果が出るよう、授業と連携して指導に当たる。</li> <li>・ホームルームを通じ、身だしなみ</li> </ul>	A		

		を整え、落ち着いて授業に向かう環境を作る。 ・ベル着を徹底する。		<p>り、規模縮小であったが、修学旅行を実施することができ、生徒のたくさんの笑顔を見ることで、気持ちのいいスタートができた。クラスマッチ、文化祭も実施することができ、3年目にして初めて全日制の学校らしい学校生活をさせてあげることができた。</p> <p>進路についても、生徒がしっかりと目標を立て、それを達成するために積極的に活動している様子が伺えた。最後の年にして、非常に充実した学校生活を送らせることができたと思う。</p> <p>これも、3学年教員団が生徒目線で生徒一人ひとりに真剣に向き合い、生徒とともに <b>ONE TEAM</b> ですべてのことに取り組んだ成果だあると思う。学年の目標である【全員進路決定、全員卒業】がほぼ達成されたのは、先生方の協力があったからこそだと思う。</p> <p>3学年の先生方、進路指導部、学年にかかわっていただいたすべての先生方には本当に感謝しかない。</p>
3 国際教育の推進		・それぞれの教科で国際教育についてできることを検討し、授業で扱うよう依頼する。 ・カレッジエリアにおいて、大学による出前授業でしっかり学ばせる。	A	
4 人間関係作りの推進		・学校行事などで協働することを通じ、望ましい人間関係を育てる。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるように指導する。 ・生徒がいじめから身を守れるように、HR で生徒を見守り、学年集会等でいじめに対してどのように対応するかを全体に周知する。 ・一人ひとりが互いを尊重し合い、 <b>ONE TEAM</b> を築く。	A	
5 特別活動の活性化		・部活動や委員会活動に積極的に参加し、学校生活をより豊かなものにする。	A	